

基調講演 「奇跡のリンゴ～必ず答えがある～」

講師 木村秋則氏

どうも皆さんこんにちは。今私ご紹介いただきましたように、肥料も農薬も堆肥も何も使わない農業を実践している、いち農家であります。近頃の食の安全の対する意識が日本のみならず、海外でも非常に高まっております。今までの農業がこれでよかったのか。また、医学の面においても、何故医学が進歩しているにも関わらず、これほど患者が多いのか。そういうふうな疑問が世界各地から出ている訳です。しかし今の学問は、肥料、農薬を使うことを前提にした学問でもあります。ですから、私のような栽培は、マニュアルなどは一つもございません。今から30数年前に、私がこんな栽培を始めたものですから、マニュアルのひとつもない、受けるのは世間からの苦情だけでした。そして、長い間の収入もなく、最初は少しだけの蓄えを使っていたんですけど、やがて底もつき、畑の雑草をおかずにしなければならない程の貧乏をした訳です。しかし本県には、リンゴに対して条例があるわけです。徹底した管理をなさいと。周辺に迷惑をかけるような栽培はしてはならないという条例です。その中で私がこうゆう栽培を、前代未聞の栽培をしたものですから、世間から批評を受けてあたりまえなことなんです。

今、お話ありましたように、皆様のお仕事ばかりではなく、全ての産業が怒濤にあえいでいる訳です。今から3年前に、私、東京のある一部上場の大会社でスピーチを依頼されて、こういうことを言いました。あと何年もしないうちに、経済の終演が起きると。それは日本のみならず、世界から起きるはずだ。そう私話しました。3年経てみて、まさに100年以來の不況を超えた大恐慌とも言われる有様になったわけです。何故私がそんなことをお話ししたかと言いますと、基本を忘れているからです。水は高いところから低いところへと流れる基本です。それを忘れてしまって、マネーゲームに走ったのが、主たる原因じゃないかなと私思うわけです。そして3時間くらい話したあと、その会社が車で駅まで送りますからという話を、いいですと、お断りして、歩いて5分位しましたら、2メートル近い背の高い人たちが私を囲みました。日本人ではありませんでした。「家族に気をつける」と。そう言われた訳です。その姿を見て、会社の役員さんが、すぐガードマンを走らせて、その場は終わりましたけれども、自分のやっていることが、何か世界に対して困る人たちがいっぱいいるのかなあと、そう思ったほどでもあります。それで私も考えました。しかし正しいことは、いつの世になっても残るはずだと。そう思っております。皆さんがこれまでやってきたお仕事はなんて素晴らしいんだろうなあ、人間ってなんて素晴らしいんだろうなあと思います。全国各地くまなく、毎年歩く訳

ですけれども、道路を見ても橋を見ても、高いビルを見ても、人間ってなんてすばらしいんだろうなあと、これはみんな人間が作ったんだよなあと、そう思う訳です。そしてまさに自然と一体化したあの橋や道路を見ると、人間ってやれば何でも出来るんじゃないかなあと。そうも思いました。ひとつの芸術じゃないかなあと私思う訳です。すばらしいなあと。そういつも思って、あちこち歩いております。

そして今農業においても、皆様のお仕事とは少し離れた私お話になりますけれども、今農業においても、どこを見ても、過疎化が進んでいます。何故過疎化が進んだのかというと、魅力がないから、若者たちがそこを去っていった訳です。ある場所に行きますと、そこに住んでいる人たち、一番若い人で76歳でした。その村おこしをしてもらいたいということで、行った訳です。今80歳越したおばあちゃんが、孫のために、大坂にいる孫のために家1個買ってやるんだと、それほど意気込むような毎日になった訳です。別に新しいことをした訳ではありません。今まで捨てていた物を、その新しい利用方法を、私提案しただけです。今まで捨てられていたものです。私も長い間リンゴがならなかった原因は、自分の足下を見ようとしなかった。今夜友達からあるいは両親から聞いた百姓の知恵、これが災いして、大きな頭の壁となって、自然の仕組みを見ようとしなかった事が大きな原因であった訳です。そして、岩木山に登ったんですけれども、何故かドジな私ロープも外れて、そこでロープを探して見つけたものが、答えであった訳です。ですから、今苦しい、苦しいと、苦しいと言っている間はまだ、苦しくない証拠です。よく言葉に明日の生活を考えるという、話があります。私は明日まで待てなかった訳です。今日の生活を考えなければならなかった訳です。そして、生きるためにはどうすべきか。答えが分かるまで、県条例という規則の中の自由ですから、畑を留守にして出かける訳にはいきません。アルバイトに出ることが出来ない訳です。答えが分かってからアルバイトを始めました。全てのものをアルバイトしたつもりです。やることやること全て初めてでした。ですから、珍しく弘前の飲み屋街へ行くと、今でも店長と言われる時もあります。そして、彼らの生活を見て、外から見た姿よりも明るいなあとそう思った訳です。ですから、私、キャバレーの世界ではお父さんと呼ばれていました。そうしてまでも何故この栽培を続けてこれたのかなあと頭の中でいつも2人の自分がある訳です。やめるよと。どっからか金を借りてきて、肥料を散布して、もとの畑に戻せよという自分と、いや、もっと続けるよ。何かどこかに答えがあるはずじゃないかよという、2人の自分が毎日私の頭にいる訳です。あの手この手尽くせども、一個のリンゴもなってくれませんでした。そして、私の栽培に耐えかねてどんどんどんどん枯れていく木が、あった訳です。もう世間からはバカきちがいを超えて誰も相手にして

くれないという状態がしばらく続きました。村の寄り合いとか案内などは1度もそれから消えた訳です。いわゆる住民じゃなくなった訳です。今どうにか少しずつ、理解を受けてくるようになりました。しかし、私の心では、自分の生まれたここ青森県大好きです。青森県の産業に傷つくようなことはしちゃんらないと思って、ほとんど青森県を除く45都道府県に私教えに出て歩いています。ここ近年、この県内でも、自分の栽培をやってみたいというそういう方も少しずつ現れ、6年前から県内を教えているような状況です。そして、この栽培は、出来ないんじゃないかと、やらないだけだと私思います。前に私こう言われました。あんたのような栽培をしていると、日本中餓死する。そう言われました。あんたの田んぼは隣からの肥料や農薬が来ているからあんたはお米がとれているんだとも言われました。ところが、そう言われた後、この青森県に大冷害が起きた訳です。今から14、15年前のことです。お米やさんにお米を買いに並ぶことがあった訳です。その時、お米が青森県で実ったのは全農家の100件あったでしょうか。私のた田んぼも良く実ってくれました。このことについて、その批判を受けた先生に、現場を見て私質問しました。先生、このことをどう説明しますか。わずか、40~50センチの畦を超えただけで隣の田んぼは皆無作です。稲が威張ったまま天井を向いているのです。私の田んぼは穂が頭を下げる分下げているのです。同じ気象条件で、違うのは私肥料農薬除草剤を使わないだけです。品種も同じです。その違いについて、その先生は答えがありませんと、そう言った訳です。その後、栽培を詳しく研究されて、アメリカでその論文を発表しています。そして今は私の良き理解者として、全国時間の許す限りご一緒している次第でございます。ですから、この栽培は、今始まったばかりなんです。

皆さんは厳しい経営が迫られていると今お話を聞きまして、この栽培こそ私おすすめる一つの手段でもないかなあと思って私今お話しております。それは、皆様には農家の知識が少ないからです。農家の知識が豊富だとこの栽培はやはり難しいです。そしてまた、この栽培の消費は大都市と中心にして、何かパニックが起きているほど需要が多いです。皆様と同じ仕事の1人として岩手県の佐々木さんという方があります。皆さんテレビを見た方は、その方が登場されましたので、頭の中で思い出してください。自分は建設業でした。しかし年々仕事の受注高も落ち込んでいき、規模を縮小して弟にその会社を譲って、自分は百姓をやった訳です。そしてその百姓は、私と同じ栽培です。この栽培の欠点は土が出来るまでに多少時間がくうことです。その間を越えると誰でも出来る農業です。そして、彼はやはり私が言ったとうりの事が起きた訳です。重い機会を使ったら土もいやじゃないか。痛くないか。痛いと思ったらやめなさいと。そう言って忠告したにも関わらず、やはりその後何回か走った訳です。

うーんこの人は辞めるかなあと。今年1年で終わるのかなあと。そう思って逆に私の方から、佐々木さん、スプレーヤーやりなさいと、言った訳です。そうしたら、彼は2日かけて手で散布したと。後で聞きましたけれども。その彼が、その年は無収穫でした。その翌年も無収穫です。奥さんからは、出来ないんだから、青森の木村の言うことを聞くのやめようよと。2年目でそういう言葉が出てきた訳です。本人あと1年やってみよう、そう言って続けました。去年、無収穫の畑から3分の1が実った訳です。私と同じでその佐々木さんリンゴの木に1本1本、奥さんと2人で、感謝の気持ちを伝えるの言っただと、私聞きました。農業とはお金以上にそういう何か数字で表せない喜びまた、喜怒哀楽がある職業じゃないかなと、私思っております。

後で、スライドとしてお見せしますけれども、今減反とか、あるいは肥料農薬高騰により農家に対して未練があるかも分からないけれども、決別をつける生産者が大勢出るんじゃないかなあと言われている訳です。派遣切り問題が社会問題化して、ニュースを騒がせましたけれども、この農村地帯でもそういうことが起きつつある訳です。現在の日本の食料、全国民の農家が生産している食料よりも、輸入する食料が多い訳です。スーパーへ行って陳列されているものを見るとほとんどは輸入ものです。何故、農家がいる農村地帯でスーパーが売り上げを伸ばしていくのか、私疑問でした。農村地帯のスーパーで一番売り上げの多いのは野菜だそうです。それも、秋が来ると一番野菜が売れるということだそうです。ということは、昔は農家の人たちが、自分で消費する野菜や、その他のものを自分たちが生産していた訳です。それが今、買った方が安いということで、売れているのかもしれない。そういう現象が当たり前のようになりつつある訳です。ですから、私何処へ行っても、もう一度生産者の皆さんには、基本へ戻ろうと、農家としての基本へ戻ろうと。一方買ってくださいお客様の皆様には、本当の食事をしよう。そうやって全国を話して歩いてきている訳です。どうにか、今私に賛同くださる農家が、あちこちで増えてきております。そしてまた、佐々木さんばかりではなく、お隣北海道でもやはり建設業が苦しい訳です。どうしたら、自分たちの経営を維持出来るか。それで、先ほどお話しにもありましたように、転業をしてしまった業者さんもあります。去年の11月、久々にお会いしまして、笑顔で再開出来るようになりました。そういう言葉を聞きまして、良かったなあと、そう思った訳です。今、北海道ですから、じゃがいも、にんじん、メインとしてハウスの中でトマトの生産をしている会社です。元は皆様と同じ建設業でした。そしてその社長は、社員を首を切りたくない。だから、あなたのような栽培を私夢見るんですと。そう言って、それじゃあ私教えます、ということで足を運びました。全く何も農家のことを知らない人たちばかりで、すごく頭に入るのが早かったです。今は

りっぱなトマト生産者です。そしてそのトマトは、ほとんどスーパーには出ないほど注文が多い訳です。元の請求書を書いていた女の子の事務員が、今は注文を受ける窓口に転じていました。これは、一つの成功例であります。ですから、岩手県の佐々木さんにも会いに行ってみると、そう話しました。そしたら、行って来た。元は同じ業者ですから、すごく話が合ったみたいで、農業に対しての夢が一段と膨らんで来たという話を聞いて、そしてまた、自分が転業して良かったと、またそんな事も言いました。ですから、皆さんが、今建設業と聞きまして、先ほどのお話にありましたように、土をいじっている仕事には変わらない訳です。ただ、その土のいじり方が違うんです。今でこそ、さまざまな社会が分化され、いろんな多種多様の職業が生まれていますけれども、またスポーツも生まれています。そして、人気のあるスポーツの中に農民の遊び、農家の人たちのかつて遊んだものが、今大スポーツに変わっているものがあります。ゴルフを始めサッカーもそうです。ですから、農業という第1次産業の世界は、全ての産業の基本になる訳です。農家が元気になれば、地方が活性化するんです。ちょうど植物に例えますと、根がない大根やほうれんそうのような社会が今だなあと私思っております。根がなければ、土の上に育っていかないんです。土の上がいくら頑張っても出来ないんです。その土の中で頑張っている職業、それは、農業第1次産業じゃないかなあと私思っております。ですから、不況だからこそ、新しい知恵を出し合ってみんなで力を合わせて活気づけるのも、これまた出来るのが人間じゃないかなあともまた考えます。

畑に毎日手で取った害虫、その害虫が今、1匹もない訳です。いったい何処へ行ったのか分かりません。何故居なくなったのかも分かりません。周辺から、あんたの畑のおかげで、うちは虫の被害が大きすぎるんだよと、もうやめてくれと。眉間にしわを寄せて私よく怒られました。しかし、虫たちも賢いんです。隣の畑との境にいて、見ると、夕暮れ時に農薬たっぷりの畑からうちへ、みんな移動して来ていたんです。虫も怖い農薬のそばには行きたくないからじゃないかなあと、私そう思いました。ですから、ああ農薬を嫌って私のところで増えたんだ、でも私のところにいることには違いないものですから、全部手で取った訳でございます。そして、その手で取った虫が今1匹もないというのは、何か不思議な世界かなあと、そう思わざるを得ないような状況でもあります。何故居なくなったのかを、また、今弘前大学の農学部の人たちが研究しているところでもあります。ですから、この栽培、私のような栽培は、始めは随分苦しみますけれども、その苦しみが過ぎたあとは、夢や希望がふくらむ一方です。ですから、先ほどのスライドの中に青森県の皆様のお仲間が、農業に希望するという数字がありまして、今の農業でやるんだったら、私はやらない方がいいと思います。今の農業で良いのであれば、今現在農家の人たちがもう

少し潤っているはずですが。毎日うちの娘は、百姓には嫁にやらんと、そうしている親父さんこそ、何故うちに嫁来ないのかなあと、言う訳です。なんか変じゃありませんか。自分の娘は百姓には嫁にやらんと。じゃあ、自分の息子に嫁が来なくて当たり前じゃないかなあと、私思うんです。今、農家の1人が日本の国民何人の食を背負っていると思いますか。農家1人で、食を生産して、お米なり野菜なりを生産して、何人の人の食を賄っていると思いますか。今から5年前の数字で100人です。離農者がどんどん増えていっていますので、1人で200人、300人を抱える時代も近いだろうと、そう考えています。そうすると、海外に依存せざるをえなくなる訳です。自分の身近なところの、田んぼや畑が草ぼうぼう。そして、海外から食を輸入するという。もう国破壊寸前の状況に陥るのが目に見えている訳です。ですから、自給率の低いこの日本こそもう少し、国民が頑張って、自分たちの国の食を自分たちが少なくとも6割は生産するんだという気持ちを持っていただきたいなあと、そう思いまして、青森県を除く全県に空き地があったら豆を植えようという運動を展開しました。今から10年前です。そうしたら、大阪から南の方では、それが今、定着しています。何故豆を植えようと提案したかということ、豆腐、味噌、醤油、これは日本人が遙か昔から食べてきた、食です。それらは全て、大豆を原料としていますけれども、今現在、それらの原料の自給率は10%よりないのです。9割が海外に依存している訳です。じゃあ日本の伝統食と言えるでしょうか。そう考えて、空き地があったら豆を植えようということを提案してやってきた訳です。今どうにか少しずつながらそれも、増えてきています。何かこの、すごく便利になった、情報もすぐ入る、こうゆう良い社会にありながら、一方では破壊がどんどんどんどん繰り返して行っているのが、今の社会じゃないかなあと思います。ですから、是非皆さん、私のような栽培も考えて決して無駄ではないんでないかなあと私思います。

ちょうどお昼ご飯も食べると眠くなる頃ですから、スライドを見せながら、少しお話進めていきます。実は近々北海道開発局の依頼で、北海道を変えようということで、行く予定です。それで、皆様にお見せするのはそのとき、見せるための同じものであります。後ろの写っているのは岩木山です。私、剪定前の私の畑です。今年は雪が少なくて、今現在50cmないです。いつもだと1メートルあるはずなのが、何故か少なくてすごく剪定の作業はしづらいなあとというような状況でもあります。これも畑です。こんな状況です。これは去年の秋のリンゴの状況です。100年以上も続いてきた農薬がなければリンゴができないという、そういう、迷信のように信じられてきたものでありますが、確かに可能でした。これは去年のの収穫前の品種はジョナゴールドです。これも同じく品種はふじです。これは、ハックナインという北海道生まれのリンゴで北

海道の人たちにリンゴを教えるためにあえて植えた品種です。これは、むつです。こうして見ますと、今まで、130年近くも青森県のリンゴ産業は続いて来た訳です。しかし、肥料農薬に頼ってきた、肥料農薬会社がいたから、100年以上も続いたんじゃないかなあとそう思っている次第です。常識というのは、全てが正しいんじゃないということを、リンゴの木から教えてもらいました。これは、先ほどお話ししました、岩手県遠野市の佐々木さんの1年目の姿です。あまりにも私の姿と最初の頃の姿と似ているので、あの頃は写真も撮っていなかったのですが、同じ姿に近いのでこうしてスライド化しています。これは、9月の写真です。ほとんど、病気と虫で葉がなくなり、このりんごはとても食べられるものではありません。どんな味がするかというと、塩を付けても我慢出来ないほど渋く、苦いです。これも同じく遠野市の姿です。品種は黄林です。この後、佐々木さんの畑でも、私の畑でも起きたこと同じ事が起きた訳です。この木が1年に2度の花が満開になった訳です。これは散った後の写真ですが、これは春ではありません。9月の姿です。この花は、来年のための花です。その年に咲くということは来年実らないよということを意味している訳です。そして、今佐々木さんに教えていることは、今までスプレーヤーを使って来たから、土が硬くなってしまっている訳です。その堅い土を麦を使って壊しているところです。麦の根は小麦で80cmから1メートル。大麦になると丈も高いですけども、2メートルくらい伸びます。皆さんは、建設会社ですから、バックホーがあって、バックホーでちょっとやると、簡単にその土を出すことが出来るかも知りませんが、土の構造が壊れてしまう訳です。上から、1, 2, 3, 4と、ずーっと順番がある訳です。その順番が壊れるから、野菜を植えると病気や害虫が集まって来るわけです。そして、茨城県では、ヨトウムシの大群で4トン車が、道路を横切った訳です。大群が、その上を4トン車が走って、気づいてブレーキをかけたところ、虫はつるつるします、体液を出しますから、その体液にタイヤが乗って滑って、事故を起こして6人死んだ原因にもなったのが、このヨトウムシなんです。ですから、土の順序は間違っても変えちゃいけない訳です。皆さん私ひとつ質問します。皆さんは建設会社の人たちですから、よく分かっているはずですが、道路とか掘削をした後、今まで何百年もお日様にあたったことのない土が出てくる訳です。その出てきた土に一番先に生えてくる草は何かご存じですか。知っている方ありましたら、ちょっとお答えいただきたいんですけども。誰もありませんか。ないようですので、お答えします。皆さん、工事終わって雨で土が流れちゃ困るから、稲科の雑草を植えるでしょ。植えませんか。傾斜地、斜面になにか施しませんか。生えてくる雑草は稲科の雑草です。これは自然の生態の中でもある訳です。一番先に稲科が生えてきて、そして、稲科はケイ酸をもっています。そして、そ

のケイ酸で土を中和して行って、次の作物、草が育つ準備をする訳です。1つも狂いないのが自然なんです。ですから、ユンボとか機械を使っておこすことは、意図も、佐々木さんのことですから、建設機械があるんですから、簡単です。あえてそれを使うな。麦を使って土の構造を壊せ、ってやった訳です。そしてこの下に生えている草は、豆科作物です。今はほとんど見る事のなくなった、昔はどこでも生えていた草です。からすのえんどうってみなさん聞いたことがおありでしょうか。それを植えている訳です。何故植えたかという、麦は肥料大食いだからです。そして、その肥料大食いをまた、利用しています。今まで使ってきた肥料農薬、自然界に存在しないものを、麦に吸収させてもらっているんです。しかし、欠点の肥料大食いがあだとなるので、木がだんだん、弱って行くので、豆科作物を植えて、土のバランスを図ろうと、こうゆう計画でやりました。ただ、木があって、そこをほったらかしているのが、私の栽培じゃないんです。これは、私のリンゴの去年の春の写真です。これは酢を散布しているところです。人間の食べる酢です。そして、スプレーヤーでやればいいんだけど、土を固めるという気持ちが強いのものですから、手でふつうであれば、2時間くらいで終わりますが、手で散布すると1日半かかる訳です。少し重労働です。まるで困んだのは、奥の人にはちょっと見えないかも分かりませんが、先ほど私のところには虫がいないと言いました。これはダニを食うダニです。大きさは0.5ミリから1ミリあるかないかです。ちっちゃい虫なんだけれども、農薬以上の働きをしているんです。もう一つ皆さんに質問します。てんとう虫は1日に何匹アブラムシを食べるでしょう。小学校の教科書にテントウムシはアブラムシを食べてくれる良い虫だと、私習いました。それじゃ、何匹食べるでしょう。誰も分からないと思います。日本全国同じ質問をしました。昆虫学者でも分からない程でした。私、リンゴがなくなかったから、1日ずーっと見てたんです。その次の日も。後仕事無いわけですから。そうしたら、テントウムシは1日に5匹から7匹でした。あとはただそこにいて眠っているだけです。だから、教科書を変えなきゃいけないんじゃないかと、そんなふうに考えていますけれども、これは、そこにいるアブラムシを全て食べ尽くしてしまう虫です。そしてアブラムシを食い尽くすと次へ移って行って、また手当たり次第食べる。何故かアブラムシ以外は食べません。一体どこからどのようにして発生してくるのか分からないですよ。えさがあるから来ているだけだと思うんですけれども。それから皆さんのところでは、蛙は上で鳴きますか、下で鳴くますか。私の畑では、上で鳴くんです。リンゴの木の上に、ここに居るカエル。大きさは2cmあるかないかです。そこを飛び交っていく蛾を待っている訳です。ですから、時々蛾は捕まえたけれども、自分が、リンゴの木の上にいることを忘れて、蛾を口にくわえたまま、上から落ちてく

ることがよくあります。なにか、こっけいなカエルでもあります。そして、今いろいろな学識者たちが一番関心を持っているのが、この穴です。この穴、どうして空いたんでしょう。この1枚の写真に医学から、植物学から全ての学者の方たちが注目している訳です。これは、自分の体が病気になった患部を自らが落として出来た穴です。いわゆる自己治療をしている訳です。何故こういうことをするのかまだ解明されていません。1人の学者は、内生菌の働きじないのかと、そんなふうにも発表もしたりしていますけれども、まだ、はっきりしたことは分かっていません。これが、人間の体で、このことが起きてくれば、病気が少しは解放されるんじゃないのかなあとということで、注目を集めている1枚の写真なんです。これは、農薬の使用料です。赤いグラフがつい2001年から2003年までの使用料です。日本は韓国、オランダと並び世界3大使用国になっています。その中で、日本で一番農薬が使用される県はどこでしょう。お分かりの方。お答えお願いできますか。はい。今、九州というお答えがありました。後ありませんか。皆さん、今皆さんがいる、青森県なんです。青森県は果樹作物の栽培が多いのでどうしても農薬の使用料が増える訳です。全国的に見ても、特にリンゴの栽培が多い県程、農薬の使用料が多いという数字が出ています。いづれにしても、アメリカがあれほどの面積を持っていながら、日本より遙かに少ないということです。ですから、みなさんも海外へ旅行された経験があると思いますけれども、イギリスでは、イギリス人に対して、日本への旅行者へのパンフレットがあります。なんて書かれているかということ、日本に行ったら、生野菜は食べるなというようなことが書いているんです。農薬の使用料が多いから、健康を害する恐れがあるので、日本に行ったら生野菜を食べないようにというパンフレットです。経済、世界の経済の10本指の日本、食料については140番目とランクされている訳です。160カ国を調べての140番目です。これは、除草剤の使用料です。これはだんとつで日本が、世界のトップを走っている状況です。毎日食べているお米、次どんな反応を見せるのか、時間もなくなりましたので、急いで皆さんにスライドをお見せします。これは、皆さんがもしも農業に転業した時に少しは参考になるかなあと思うのですけれども、お米の一反歩あたりのいわゆる残るお米です。この残るお金、この青い紺色のした棒が残るお金です。この表を見ると青森県はすごく収益率が低いということがよくお分かりかと思えます。ですから、今現在やっている農業をそのまま皆さんがやるのであれば、考えたほうがいいのかといったのはこのことです。そして一番左端皆さんから見ると右側ですけれども、自然栽培と書いています。これは、高い需要に支えられて収益率もダントツです。これはわずかに7俵より収穫しない計算をしています。一般は全部10俵で計算しています。今肥料農薬除草剤使わないで、7俵はあたりまえになっているんです。当

たり前というよりも、むしろ生産量が少ないということです。よくこのグラフを見て皆さんも参考に出来ればと思います。これは私の畑を弘前大学杉山先生が30年以上も肥料を使っていないのに、それでは一体土にどれくらいの窒素分があるのかと、養分があるのかと調べた表です。濃い色が私の畑です。薄い水色が周辺の畑です。何も施していないのに、これほどの、施した畑よりも逆に、養分が多いということになったわけです。肥料を使っていないから、栄養分がないだろうというのは、大きな間違いであった訳です。何か不思議な話です。これは、私のリンゴと、遠野の市役所で試験した姿です。書いているごとく2007年1月14日に始めましたと。そしてこの写真は7月の写真です。もちろん冷蔵庫に入れていません。他のりんごは一番のこのリンゴはもはや食べれる状況ではありません。そして、一番そっちの端は、佐々木さんが生産したリンゴであります。まだどうにかリンゴらしさを残しています。先ほど除草剤の使用料が一番多いといいました。皆さんが毎日食べているご飯はどんなご飯でしょう。これは、農水省が安全ですよ、使っているのを全部調べて、極めて安全なものですよと、言っている農産物です。何故腐るんですか。これ結果を早く見るために、ご飯にして、ご飯を炊いてやったやつです。一方何も施さない私の栽培のお米はまったく変化がない訳です。そのあとこのお米は、とてもこの会場に持ってこれない程の、吐き気をする臭いになりました。みなさんが毎日食べているお米はどっちでしょうか。このお米はこうゆう腐るお米を食べているから病気にならないということはないんです。分析したから、何も出てこない。ところがこのようにして腐る試験をすると初めてその姿を出す訳です。是非とも皆さんには、もしも皆さんが転業されて田んぼをおやりになった時には、こちら側の腐らないお米を作ってください。今、消費者の方が逆に知識をもっているんです。これはキュウリです。安全と言われてきたJAS法マークの付いた、認定マークの付いたキュウリ、原形ありますか。もうどろどろに解けています。99%が市場に流通しているのが、どろどろに解けるキュウリです。これから、転業または、今の仕事をしながら、一部でこうゆう農業を考えてみたいという人は、是非とも消費者ニーズの高い農業をやるべきじゃないかなあと、そう私は考えています。後、もう時間もだいぶなくなってきましたので。これは、ドイツに行ってきた時の写真でありまして、世界の有機農業をリードしている、一番進んでいる国であります。そのドイツで、今、ひとつのとんでもない反応が起きている訳です。それは、木村メソットという言葉です。去年の5月の写真ですけれども、進んでいると思ったはずのドイツが、ただ肥料農薬を使わない、情けない農業をやっていた訳です。これじゃいかんと。こんな姿で、世界の食をまかなえるかと、私そんな話をして、それから頻繁に足を運んでくるようになりまして、もうすでに国自身が今年党を挙げて訪

聞きたいということになっています。何故穴を掘ったかという。土の中を穴を掘ってみないと分からないからです。これは温度を測定しています。そして、これは、減益を何度も繰り返して発表した豊田市。豊田市が、トヨタが私の栽培に賛同下さって、トヨタで全国で私に賛同くださった農家の展示会をやりましょうということの写真です。誰もが本当に肥料を使っていないのかと思う、見間違え程の農産物です。そして、さらに言いたいことは、腐らない農産物です。これは、非常に寂しげな写真ですけれども、平成17年に国会議員の食育の会の人たちまあ570人か540人か分からなくなりましたけれども、畑を訪れた時の一コマです。是非とも、その時国会も考えて正しい農業を検討くださればという意見を私お願いした次第であります。これ、畑で私、椅子なんか準備も出来ないし、それで、偉い方々にリンゴ箱の座ってもらったという経緯です。これはお隣韓国です。そしてどうにか私に農協が賛同してくるようになったのです。これは宮城県のいち上よつば農協という役員の人たちです。肥料農薬使わない、除草剤使わない農業、お米を作って消費者に届けていこうと。田植えを終わって、全部予約で完売したそうです。それまでは、お米が残って販売に苦慮して、矛米としても扱ったんだけれども、今は、田植えと同時に完売と。そんなうれしい悲鳴ですと、そういう、去年あいさつに来ました。これはようやく青森県が動いた様子です。これは田んぼです。時間もだいぶなくなりましたので、急いでやります。田おこし、代掻きが全く私の場合は違うんです。上が今までの代掻きです。とろとろの練りあんを作ります。私はきわめて粗末なごろごろ代掻きをする訳です。そして、除草は、小さい面積の場合は手でやりますけれども、やはりある程度面積が5町歩、10町歩となりますと、苦痛が伴う訳です。それで、古い田植機にチェーンを引きずらせています。これは今、全国に除草剤よりも流行っています。もしも皆さんが田んぼをやるんでしたら、一度私教えますので、是非このチェーンによる除草を考えてみてください。もうこの生産者は27町歩生産しております。ここで今終わります。これが肥料をやった田んぼです。こちらが私の栽培です。すこぶる初期生育は悪いです。ですから、田んぼへ行って、稲を見るなど私よく言うんです、この頃。隣の田んぼは肥料のおかげでどんどんどんどん伸びていっています。いかにも元気そうに見えます。ところが、まだ、条間が分かります。ところが、9月に入るとほとんど見劣りしない姿です。これは収穫前の姿ですけれども、ですから、除草に対しての答えがあれば、稲は最も簡単に転換できる作物のひとつです。腐らないお米を作るまでに約3年かかります。ですから、その土作りにやはり時間がくうというのはそういう事です。これはどうにか青森県が今度は売れるお米を目指そうということで、こうして視察しているところであります。これは、この青森県青森市の田んぼです。もしも興味がありましたら、そ

の方を訪ねたらいいんじゃないかなあとと思います。これは土の臭いを嗅いでいるところです。この草ぼうぼうのところ、減反して、これほど草が生えているところ、この田んぼ次の年、普通一般の水田に変わりました。そして立派に収量を持って愛知県の中京新聞に大きく取り上げられていました。だいぶ時間もなくなって来まして、皆さん今、日本の砂漠化が進んでいるとよく言われますけれども、これ、日本ですよ。皆さんこの前の写真を見て海辺だと思いませんか。誰もが見ても砂浜です。全く砂です。そして、ここは10年前までは、この県の食料の宝庫と言われた場所なんです。これは農水省が全てを尽くしてやった畑です。ですからこの畑に日本の農科学者達が全部集まった訳です。そして10年過ぎたら、砂漠化したんです。面積はかなり広大です。畑としては再生不可能とさえ言われてきた訳です。そして、どうかこの畑をもう一度緑の畑にしたいという願望があって、そして今、取り組んでいます。何をしたかということ、落花生を使った訳です。この落花生のここを使うんじゃないんですよ。ここを使うんですよ。根っこ。豆科作物ですから。豆を植えました。ここに野菜を植えるんです。それが、こう変わった訳です。草1本生えない砂漠が、よみがえってきた訳です。今近々ここから、野菜が届けられるようになっていきます。写真で分かるように、人参をまずやりましょうと、いう話です。ですから、肥料農薬除草剤土壌改良資材とかいっぱい市販され、また、農家の人たちが使っていますけれども、こうよう畑にしてしまうのは、やはり農家としてはどうかなと私考えます。今ここは再生の道をたどっています。随分長くなりまして、すみません。これは北海道の先ほどお話しした、農家の一例です。もちろん皆様と同じ仲間です。もちろんこのじゃがいもには肥料農薬除草剤一切使っておりません。誰もが驚く畑です。虫1匹いません。まるで、今までも農家やっていたのかと、そういう気持ちになります。ですから、出来ないんじゃないんです。これは、これで終わります。牛たちが座っている寝ころんでいる、これは何だと思いませんか。誰も想像つかないと思います。餌を変えて、食べる餌を変えていったらどういう結果が起こるかということで、試験した訳です。これ、うんちです。自分の、牛達が排泄したうんち、おしっこです。そして、平らになっています。これは、人が平らにしたんじゃないんです。全部牛がはいばって歩いて平らにしたんです。餌を変えたら、どういう姿を見せるかという、一つの試験です。そして、もうこれは実用化に入って、九州から南の方で盛んに行われています。はい、これもそうです。全部うんちです。そして、八工1匹いません。これもそうです。何かうんちらしからぬうんちだと思えますけれども、1年4ヶ月うんちを出さないでみたら、どれくらい積もっていたかということ、35cm積もっていました。そして、それ以上に皆さんに注目してもらいたいのは、八工の卵がないことです。ですから、食べるものを変えるということは、

牛でさえもこういう姿を出した訳です。もちろんこれを実験する前に、私と女房が1ヶ月毎日毎日食べました、牛の餌を。そしたら、自分たちが死ななかつたから、やはり牛にも実験しました。そして、豚にも今やっております。この方法は、暖地じゃなければ出来ないという欠点もある訳です。ですから、もしも皆さんが転業を考えておられるんでしたら、こういう方法を取るんでしたら、やはり、これは暖地じゃないと出来ないの、この北国青森県では少し無理です。今しばらく待ってください。北国のための試験をしております。もちろん私と女房が食べて死ななければ大丈夫だと思います。まあそんなところで、もう時間も少しオーバーしてしまいました。今やっている仕事がダメだから、全てがダメだという気持ちは、決してあきらめないでください。私100年以上も続いたものに、バカきちがいと言われて挑戦して、どうにかここまで来ました。今百姓が面白いです。日本農家の若者達1年に私のところに4,5千人来ます。あんなのうような百姓やりたいと。それほど農業が楽しい時代です。そしてまた、農業が必要な時代が来たんです。それは人間が食べなければ生きていけないんです。どんな偉いことをしても、どんなにドルを買ってその利ざやを稼いでいても、食べなきゃ死ぬんです。是非とも農業はやりかたを考えて、変えてやると、楽しい仕事であり、そしてまた、継続生産が可能な仕事でもあります。何か皆さんの、私と仕事が違うけれども、どこかに必ず共通点があるんじゃないかなあと思って、私こうゆう、もしも農業に転向したら、こうゆう農業もあつたなあ。木村がいつかこうゆうことを話してあつたなあ、そう思って参考にさせていただければ、すごくうれしいなあと思って、今日この話をしました。青森県が元気になるために、みんなで力を合わせて、是非とも頑張っていきましょう。私そう思っています。長い間ありがとうございました。